

週日の説教

金 大烈 神父 2011年9月24日(土)

《祈りましょう ～気分よく一日を過ごすために～》

皆様は、したいことはしてほしいですね。したいことをしなければ、どのような気持ちになりますか？ あまりよい気分にはなりませんよね。やはり、したいことはして、欲しいものは手に入れたいですね。

別の質問をします。皆様は、祈って嫌な気持ちになったことはありますか？ 気分が重くて耐えられなくなったことはありますか？ ありませんよね。では、平日のミサに与ったために、気分が重くなってしまったことはありますか？ むしろ逆ですね。あまり祈らなかった日に「少し祈りたい」と思って聖堂に座って祈る、または、家でろうそくに火をつけて、ひざまずいて、きれいな心を持つとしながら祈る、そのようなことによって気持ちが良くなる体験をしたことがあるでしょう。ミサに与って、「今日はよかった。罪が降ろされた気がする。」そういう気持ちになることがあるでしょう。

したいことをしなければ、気分が悪くなるのは当然なことです。しかし信仰の中では、したほうが気分がよくなることをしていません。これはどうしてでしょうか。

信仰にもっと近づき、深く信仰的な、霊的な体験をするためには、どうしても祈りという門を通らなければなりません。祈りなしに頭だけであれこれ考えても何の役にも立ちません。ですから、求道中の方の勉強でも、祈りの重要性、ミサの重要性についてよく話されます。

私たちは、よいもの、自分を喜ばせることなのに、なぜ祈ることをためらうのでしょうか。なぜ祈りの時間をとろうとしないのでしょうか。

私も時々、わけも分からない怒りを感じることがあります。何でもないようなこと、普段ならば平気で受け取れる相手の冗談でも、本当に気分を悪くしてしまうことがあります。「なぜこの人は、このような言い方をするのか。なぜこのような視線を私に向けるのか。」と思い、気分が悪くなる時があります。しかし、反省してみると、それは必ず祈りが切れてしまった時でした。ミサに集中できなかった時でした。そして、神父になって20年経っていますが、今でも、祈りが上手く出来た日は嬉しいです。本当に自分が喜びを感じます。そして、どんな悪い状況の中でも、悪い環境の中でも力が出ます。

今日の福音(ルカ 9:43b - 45)で、イエス様は、「この言葉をよく耳に入れておきなさい。」とおっしゃいました。『よく耳に入れておく』とは、どういうことでしょうか。それは、信仰者である私たちにとっては、『祈る』ことです。祈ることは、喋ることではありません。自分のことで一生懸命に騒ぐのが祈りではありません。祈りの一番の基本は、神様のみ言葉に耳を傾けることです。「私に何を望んでいらっしゃるのでしょうか。」「私がどのような生き方をすればあなたは喜ばれるのでしょうか。」ときくことです。この基本的な姿勢から始めるのがよい祈りです。

先ほどミサが始まる前に、私は申し上げましたね。私たちが何を望んでいるのか、それを私たちよりよくご存知なのがイエス様です。ですから、祈りの方法を変えなければいけません。大体私たちは、祈りといえば自分の願いを強くイエス様に願うことだと思っています。もちろんそれも祈りです。しかし、本当の祈りを味わうためには、先ず、「私はどうすればよいのでしょうか。」と聞こうとする姿勢が何よりも必要なのです。

本当に祈れば嬉しくなります。本当にミサに与れば、テレビのドラマを見るより、嬉しくなります。もちろんドラマは、ミサよりも面白いです。それは当たり前です。しかし、自分の心に残る力、慰め、励ましは、ドラマを見ても得られないでしょう。もしかしたら、感動させるようなドキュメンタリーを見たら感動するかもしれませんが。しかし多くの場合、私たちが時間を使っていることは、どのくらいの感動を与えてくれているのか、よく考えてみてください。皆様に、本当に祈りの時間を持つとする心、そしてミサに与ろうとする心があれば、バスに乗る時も、車に乗って道が混んでいる時にも、ロザリオを繰ろうとすると思います。そういうことによって、皆様の一日は変わります。

私も、司祭が朝晩必ず、義務的に捧げなければならない祈りがあるのですが、それをしばらくしなかったことがあります。理由はいろいろあったのですが、しばらくぶりに聖堂に静かに座って祈った時、本当に嬉しかったです。なぜこのような喜びを与えるものを私が避けて来たのか、と思いました。本当に強い体験をしました。皆様も、寝る前に少しの時間、ろうそくに火をつけて、ひざまずいて、祈ってください。「イエス様、今日もありがとうございました。今日一日、いろいろなことがありましたが、あなたは守ってくださいました。感謝致します。」というような短い祈りでも、心をこめて捧げれば、怖い夢にうなされることはありません。必ずよい夢を見ます。そして翌朝、気分よく目覚めます。そのような一日を作りましょう。

ありがとうございました。